

ライオン家庭科研 鈴木益太郎

○石 英輔

加藤みつ子

1. 洗剤の性能を評価する上で、すすぎ性は最も重要な因子の一つである。従来、衣類用洗剤のすすぎ性は実際洗たくによるすすぎ液上の泡の残り具合により、一般には間接的に評価がなされてきた。

本報告は洗たく後の繊維に残存するアニオン活性剤を定量することにより、洗剤のすすぎ性能を直接的に評価し、従来の視覚によるすすぎ液上の泡残りによる評価法との関係を明らかにし、且つ家庭洗たくにおける最適すすぎ条件を見出した。

2. 繊維に吸着しているアニオン活性剤の定量法としては放射性同位元素の利用が唯一の方法とされているが、我々はアニオン活性剤のエタノール抽出、Abbottによるメチレン・ブルー比色法が実用上使用可能であることを見出し採用した。

試布としては、木綿のメリヤス地及び平織を用い、洗剤は LAS-Na 及び AOS-Na と各種ビルダー配合洗剤を用いた。

3. 視覚による間接評価法と繊維に残存する活性剤の定量による直接評価法との間には良い相関が得られた。

家庭洗たくにおける最適すすぎ条件は、バッチ式の場合3分2回が適当であり、オーバーフローの場合は更に短時間で済む事が知られた。